宇部市営旅客自動車運送事業審議会
第２回資料

令和８年９月２４日
宇部市交通局

目次

１．審議にあたっての前提条件　P４

２．サービス水準の見直し方針（案）　P７

３．特に意見をいただきたい論点　P19

４．第３回審議会に向けた論点整理　P21

本日の審議会におけるゴール

路線ごとの是非を決める場ではなく、どの利用者のどの移動を、どの要素で重視すべきかについてご意見をいただきたい。とくに、次の3点についてご意見をいただきたい。

- **どの利用者層・移動目的を重視すべきか。**
- **どのサービス要素（時間帯・頻度・接続性）を重視すべきか。**
- **限られた経営資源の中で、最低限維持すべき範囲と、見直しを検討する範囲をどう分けるか。**

審議にあたっての前提条件

審議にあたっての前提条件　※第１回資料再掲

交通局として考えること

- 公営交通事業者として、どこまでの運行水準・運賃水準とするか。
- 限られた財源、人員、車両、施設の中で、事業をどう持続可能にするか。
- 市の施策とどう連携していくか。

市全体で考えること

- 市全体の移動需要や地域交通ネットワークの水準をどう確保するか。
- どの地域に、どのような移動手段を配置するか。
- まちづくりやその他の施策をどう考えるか。

上記を踏まえ、本日ご議論いただきたい「サービス水準」とは、主として次の物理的な運行サービスの要素である。

- 運行時間帯（朝夕ピーク、日中、土休日）
- 運行頻度（便数／時間、日あたり便数）
- 接続性（結節点での乗継時間・動線）
- 路線維持（幹線・支線・地域内循環）
- 結節点アクセス（駅・空港・主要施設へのアクセス）

※新しい路線づくりについては、原則、市全体で考えることであり、本審議の対象外

審議にあたっての前提条件

（利用者層ごとの運賃支援制度について）
・宇部市では、高齢優待制度、小中バス運賃無償制度を実施し、交通局ではサバスク、サバスク学割を販売し、それぞれの利用者に対して運賃支援を行っている

利用者層	対象者数	宇部市の人口に対する割合	利用者層別の運賃支援制度	支援制度実施主体
高齢者 （70歳以上）	43,216人	28.2%	・高齢優待制度	市
学生 （小・中・高校生）	15,901人	10.4%	・小中学校バス運賃無償制度 ・サバスク学割（定期券）	市（バス運賃無償） 局（サバスク学割）
一般利用者 （高齢者・学生以外）	89,227人	58.3%	・サバスク（定期券）	局

人口は153,105人（令和８年７月１日時点）
学生は小学校児童数：7,265人、中学校生徒数：3,975人、市内高校に通う生徒数：4,661人（高専含む）※令和７年度調査

サービス水準の見直し方針（案）

サービス水準の見直し方針（案）
①どの利用者層・移動目的を重視すべきか。

（重点対応の考え方）
・経営戦略見直しにあたり、今後５年間で重点的にサービス水準の見直しに取り組んでいく利用者層・移動目的

利用者層	主な移動目的	対応区分評価			重点対応区分
		利用者特性	利用実態	将来展望	
高齢者	買物	◎ 自家用車等他の移動手段はあるが、免許返納後は選択肢が絞られる	◎ 利用実績あり（週３回以上利用者の２２%）	◎ 市施策（高齢優待・外出支援）で需要継続	重点
高齢者	通院	◎ 自家用車等他の移動手段はあるが、免許返納後は選択肢が絞られる	○ 週３回以上利用者の５%の利用があるが、他アンケートとの利用実態と乖離	― 利用実態と他アンケートとの乖離理由は不明	―
中学生	通学・部活動・塾	◎ 自転車は通学の安全性、保護者送迎は負担が課題	○ 利用実績があるもののR7.7開始で蓄積期間が不足	― 小中無償によりバス利用機会が増加中も、制度移行の影響不明	―
高校生	通学・部活動・塾	◎ 自転車は通学の安全性、保護者送迎は負担が課題	◎ 利用実績、高校１年生利用増加傾向あり	◎ 小中無償化により利用機会が増加。日常的にも利用定着を期待	重点
一般利用者	通勤その他	× 自家用車利用を前提とした通勤環境	○ 利用者は１．５万人いるが低頻度	○ バス利用への転換見込みは低いが、大きなインセンティブがあれば転換の可能性あり	―

サービス水準の見直し方針（案）
②どのサービス要素（時間帯・頻度・接続性）を重視すべきか。

利用者層	高齢者	主な移動目的	買物	重点対応区分	重点

現状	・週３回以上乗車する利用者層について、フジグラン宇部、ゆめタウン宇部、サンパークあじすなど商業施設への移動が利用の中心。 ・これらの移動において、新川駅で降車する利用の約５割は乗り継ぎを伴い、平均待ち時間は１２分。 ・高齢優待制度が利用でき、一定の乗り継ぎでは、ICカード利用で乗継割引がある。
課題	・宇部新川駅における待ち時間の短縮と待合環境の改善が必要。 ・郊外型SCへのアクセス性の向上が必要。
施策の方向性	・商業施設への乗継を目的とした便について、宇部新川駅の発時刻の調整による接続改善や上屋やベンチなど待合環境の改善を図るなど、待ち時間そのものの負担軽減を図る。 ・市の施策（高齢優待制度等）と連携し、高齢者の利用定着の取組を進める。 ・ICカード化を促進し、移動実態を把握して買物利便性の向上につなげる。 ・乗継割引を継続する。

サービス水準の見直し方針（案）
②どのサービス要素（時間帯・頻度・接続性）を重視すべきか。

利用者層	高齢者	主な移動目的	通院	重点対応区分	―

現状	・週３回以上乗車する利用者層では、山口大学病院や宇部中央病院など基幹病院への通院利用は５％程度にとどまっている。 ・高齢者福祉に関するアンケートでは、回答者の４割は「通院」でバスを利用していると回答しており、IC実績との乖離がある。 ・診療所等への移動実態は分からないが、一定の利用者はバスを利用していると想定できる。
課題	・基幹病院は、専門的な診療など、地域医療において代替の効かない機能を担っており、そのアクセスの利便性は、高齢者にとって特に重要であることから、基幹病院への利用者ニーズを把握する必要がある。 ・診療所等への移動については、目的地が多く、効果的な利用増加策が打ち出しにくい。
施策の方向性	・基幹病院の通院者を対象としたアンケート調査等を実施し、来院手段(バス・自家用車・送迎・タクシー等)の実態や、バスへのニーズを把握し、対応を検討する。

高齢者優待制度利用実態
※買い物、駅、通院等へのアクセスに利用

【高齢優待制度の概要】
・市営バス全路線において、1乗車あたり100円で乗車できる制度
・70歳以上の宇部市民が利用可能
・路線バスを2時間以内に乗り継いだ場合、50円の割引（ICカード利用限定）

利用の広がり状況

- 70歳以上人口：43,216人
- 高齢優待利用者推計：約6,500人
  （全体の約１５%）
- IC利用者数：1,978人（利用者の約３０%）
- 年間トリップ数：202,034回

ICデータから分かる利用実態

- 週３回以上の利用者数は全体の１２%
- 移動先はフジグラン宇部、ゆめタウン宇部、サンパークあじすなど商業施設への利用が２２%
- 山口大学病院や宇部中央病院など基幹病院への利用は５%程度
- 宇部新川駅の降車５７%は乗継目的
- 平均１２分待ち

サービス水準の見直し方針（案）
②どのサービス要素（時間帯・頻度・接続性）を重視すべきか。

利用者層	中学生	主な移動目的	通学・部活動・塾	重点対応区分	―

現状	・令和７年７月より小中学校バス運賃無償化が開始され、中学生は延べ約７万人の利用があった。 ・「宇部市立小中学校適正規模・適正配置計画」及び「宇部市部活動地域展開方針」により、保護者の負担軽減等に向けて公共交通機関の活用が期待されている。
課題	・運賃無償化の利用実態は一部把握しているものの、移動パターンは安定的に把握できていない。 ・適正配置計画と地域展開はそれぞれ異なるタイミングで進行するため、路線・ダイヤの対応を検討すべき時期がずれる可能性がある。 ・現行の通学バス需要とは異なる新たな移動ニーズが生じる可能性があるが、その規模・区間は現時点で見通せていない。
施策の方向性	・中学生利用データの蓄積を継続し、時間帯・区間・利用頻度の傾向分析を行う。 ・適正配置計画・部活動地域展開の双方の進捗状況を市の関係部局と定期的に共有し、バス路線・ダイヤの対応方針を機動的に検討できる体制を整える。

中学生利用実態
※平日は通学アクセス、休日は商業施設のアクセスに利用

【小中学生バス運賃無償化の概要】
・市営バス全路線において、運賃無料で乗車できる制度
・宇部市内の学校に通学する小中学生や市内在住の小中学生が利用可能

利用の広がり状況

- 市内中学校生徒数：3,975人
- 年間トリップ数：68,232回

※令和7年7月19日から令和8年3月31日までの数

利用実態

- 平日利用は全体の４９．７％
- うち６４％は通学利用
- 休日利用は全体の５０．３％
- うち３６％がフジグラン宇部、ゆめタウン宇部のいずれかの商業施設への移動

サービス水準の見直し方針（案）
②どのサービス要素（時間帯・頻度・接続性）を重視すべきか。

利用者層	高校生	主な移動目的	通学・部活動・塾	重点対応区分	重点

現状	・令和８年度の高校1年生は、実質的利用者数が4～7月前年同期比で約３４%増となっている。 ・通学定期利用者のうち利用者の３７%が宇部新川駅で乗り継いでいる。 ・宇部新川駅は乗継拠点として機能している一方で、通学時間帯の平均待ち時間は１２分となっており、朝の時間帯、乗り継ぎを要する生徒にとって一定の負担が生じている。 ・宇部駅、宇部新川駅の朝夕時間帯のJR線との接続はバスのダイヤを調整済み。
課題	・通学定期利用者は１年間を通しての利用が少なく、継続的な利用促進が必要。 ・新川駅の接続待ち時間は、利用継続の判断につながる可能性もあることから、利用定着に向けて改善を図る必要がある。 ・バスを利用していない生徒が、どのような理由(経路、待ち時間、他の交通手段)で利用に至っていないのかが、IC実績だけでは把握できない。
施策の方向性	・利便性の向上にあたっては、効果が高いと考えられる高校を重視する。 ・乗継を目的とした便について、宇部新川駅の発時刻の調整による接続改善や上屋やベンチなど待合環境の改善を図るなど、待ち時間そのものの負担軽減を図る。 ・学校と連携し、利用が増加した生徒層の定着状況及び、未利用者の利用意向・阻害要因を把握するニーズ調査を実施する。 ・ニーズ調査の結果を踏まえ、ダイヤ改正等により利便性を向上させる。

高校生利用実態
※朝の利用を中心に、宇部新川駅での乗継利用

【サバスク学割（定期券）の概要】
・小中高校生、大学生その他学生であることが条件
・ICカード限定の市営バス全線乗り放題
・１か月5,000円、３か月14,000円、６か月26,000円でそれぞれ販売

利用の広がりと定着状況

- 市内高校学生数：4,661人
- 定期利用者数：584人（全体の１２%）
- 年間トリップ数：145,094回
- 定期利用者の約３割は通年利用していない
- 大半は１学期で利用をやめる傾向がある

宇部新川駅の乗継構造と接続待ち時間

- 214人が新川駅で乗継をしている
- 乗継後の行き先の上位は、香川学園前52人・高専グランド前50人・宇部高校13人・宇部西高入口10人
- 新川駅における朝の接続待ち時間の平均１２分

サービス水準の見直し方針（案）
②どのサービス要素（時間帯・頻度・接続性）を重視すべきか。

利用者層	一般利用者	主な移動目的	通勤・私用	重点対応区分	―

現状	・定期券利用者は約４００人でそのうち１５%が通勤利用と考えられる。 ・通勤利用者は、朝７～９時台、夕１７～１９時台までの利用が中心。 ・非定期利用者は約２万人。 ・そのうち利用頻度が年３回以下の利用者は１．５万人にのぼる。
課題	・２０時台以降は利用者・利用回数が半減することから、当該時刻の始発便について、利用状況を再点検する必要がある。 ・非定期利用者は、移動目的や目的地が多岐にわたるため、効果的な利用増加施策を打ち出しにくい。
施策の方向性	・平日２０時台始発の運行サービスについては、空港便など特定の路線を除き、利用者数や利用者層の実態を把握し、運行の可能性を再点検する。 ・イベントに合わせた運賃１００円デーの実施、ノーマイカーデーへの協力など、市の施策と連携した利用機会の創出を行う。

一般利用者利用状況
※通勤利用者は朝夕の利用が中心、非定期利用者は移動目的把握困難

【サバスク（定期券）の概要】
・条件なし
・ICカード限定の市営バス全線乗り放題
・１か月9,000円、３か月25,500円、６か月48,000円でそれぞれ販売

サバスク等定期利用者の実態

- 18～69歳市内人口：89,227人
- サバスク等定期利用者：402人
- うち通勤利用者：63人
  （サバスク等利用者の１６％）
- 通勤利用者は約８割が３路線以上使っており、複数の路線を使い分けている
- 利用時間帯別では、朝７，８時台の利用が全体の３５％、１７～１９時までの利用が２５％
- １９時台→２０時台に利用者、利用回数ともに半減

非定期利用者の実態

区分	年間トリップ数	構成比
年3回以下	27,981回	14.1%
年4～12回	29,107回	14.7%
月1～4回	53,804回	27.1%
週1回以上	87,435回	44.1%

※定期利用者のうち「通勤」と定義したのは「同一ODが６割以上」かつ「朝９時までの乗車が５割超」かつ「週３回以上乗車」

（参考）利用者層ごとの利用実態について

利用者層	実利用者数	トリップ数	判定基準
高齢者	1,978人	202,034回	高齢優待乗車証利用者
うち週３回以上利用者	243人	99,745回	高齢優待乗車証利用者・利用頻度
通学者（定期）	584人	145,094回	サバスク学割利用者
サバスク/一般定期	404人	115,954回	サバスク/一般定期利用者
うち通勤利用者	63人	26,230回	サバスク/一般定期利用者のうち利用時間等で抽出
非定期利用者	21,054人	198,327回	その他
うち週１回以上利用者	555人	87,435回	利用頻度

※利用実態は令和７年度のICカード利用実績を基に作成し、ICカードデータが全体の実態を反映しているものとして分析
※ICカード利用率は令和８年３月末時点で４１．４％
※実利用者数は、実際に利用したICカード固有の番号をカウントしている

特にご意見をいただきたい論点

特にご意見をいただきたい論点

問い　P7サービス水準の見直し方針（案）について　以下の点で意見をいただきたい
①移動を確保すべき利用者層の考え方について
②移動を確保すべき利用者層を踏まえたサービスの拡充と見直しなどの考え方について
③その他について

第３回審議会に向けた論点整理

第３回審議会に向けた論点整理

第３回　テーマ	検討内容
受益者負担のあり方の検討	収支見通しと運賃改定など適正な受益者負担を検討

第３回で特に意見をいただきたいこと

- 今後の収支見通しを踏まえて、運賃改定など受益者負担の適正化の必要性について
- 受益者負担の適正化はどの程度が許容されうるか